

2018年3月期 決算説明会

2018年5月25日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

本日の内容

【第一部】

1. 2018年3月期 決算概要
2. 2019年3月期 業績予想

【第二部】

3. 経営環境
4. 中期経営計画
「バリュークリエーション2020」の進捗

1. 2018年3月期 決算概要

2018年3月期 決算ハイライト

中期経営計画「バリュークリエーション2020」の2年目は、大幅な増収増益を確保。
海外は現地通貨ベースでも好調を維持。

売上	連結	連結売上高は、前期比111.9%、43億円増の410億円。
	日本	前期比107.9%の171億円。 電子部品・半導体関連、食品・飲料関連、医療関連の受注も好調を維持。
	中国	前期比115.3%の201億円。 新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が大きく伸長。
	その他	前期比113.6%の37億円。 欧州、シンガポール、インドネシアが好調に推移。
利益		営業利益は前期比142.8%の28.4億円。 設備投資や研究開発投資の減価償却費等による販管費の増加はあったものの、売上増加による利益増に加えて、工場の稼働アップによる原価率の良化により、増益。経常利益は前期比145.7%の27.3億円。 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比130.0%の17.8億円。
ネット資金		親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により、期首から9.6億円増加。



損益計算書サマリー

2018年3月期は、2017年11月と2018年2月の2段階で通期の業績予想を上方修正。その後、国内事業も堅調に推移したこともあり、結果として上場来最高益を更新。

(単位:百万円)

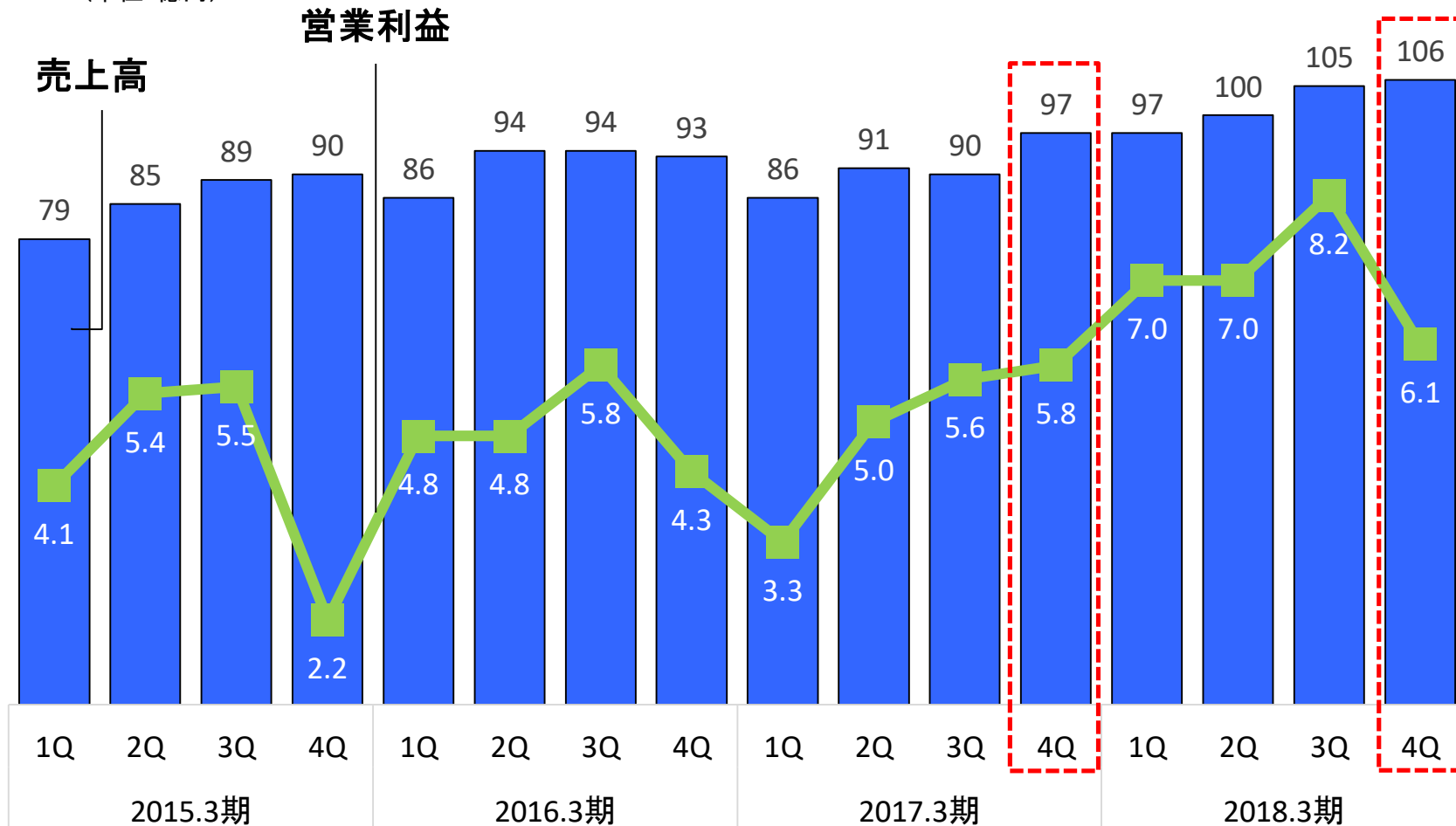
	2017年3月期 (実績)	2018年3月期			
		修正予想 (2018/2/9公表)	実績	前期差 (前期比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	36,648	40,900	41,025	4,376 (111.9%)	125 (100.3%)
営業利益	5.4% 1,990	6.7% 2,720	6.9% 2,843	852 (142.8%)	123 (104.5%)
経常利益	5.1% 1,874	6.4% 2,620	6.7% 2,731	857 (145.7%)	111 (104.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.8% 1,375	4.2% 1,710	4.4% 1,788	413 (130.0%)	78 (104.6%)



売上高と営業利益の推移

四半期ベースで売上高は上場来最高を更新、営業利益も高水準を維持。

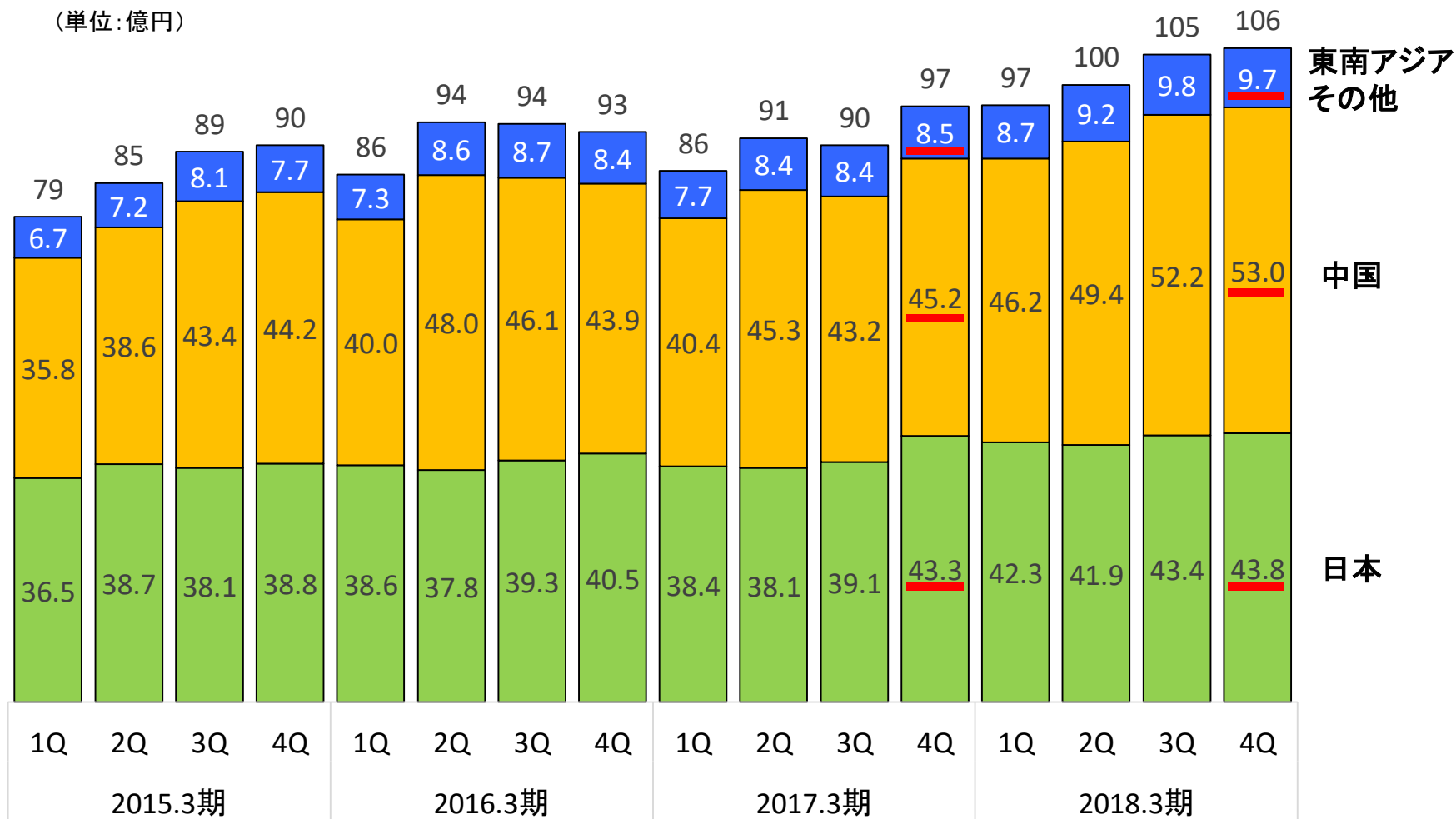
(単位:億円)



地域別売上高

四半期ベースで、全地域が増収を達成。

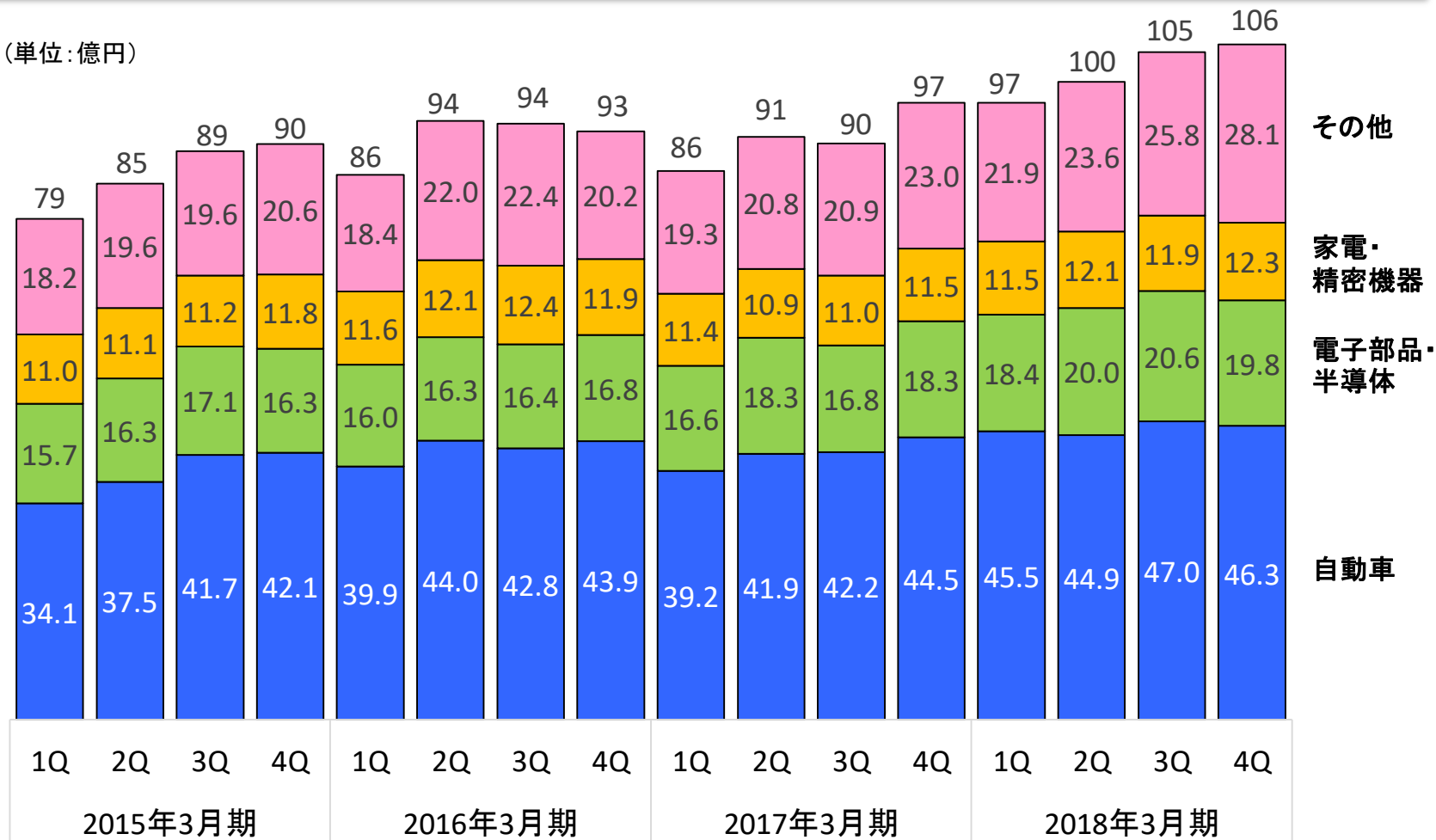
(単位:億円)



業種別売上高

高付加価値分野の食品・飲料関連の受注が拡大する等、「その他」の伸長が貢献。

(単位:億円)

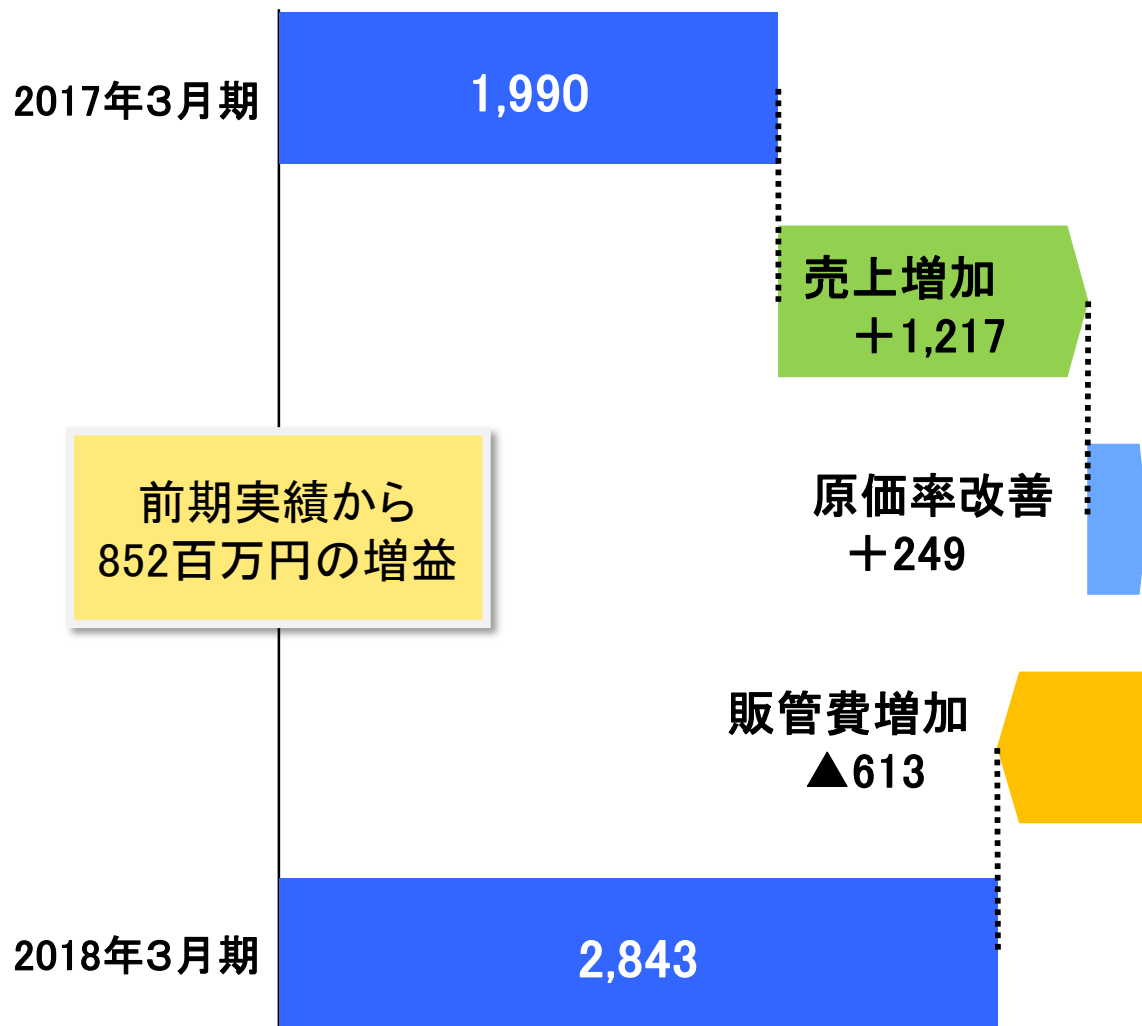


注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正



営業利益増減

(単位:百万円)



【売上の主な増減要因】

- 日本事業の自動車関連及び電子部品・半導体関連、食品・飲料関連が好調を維持
- 海外事業の受注が好調継続

【原価率の主な増減要因】

- 日本及び海外事業での業績好調による原価率良化
- 内製品の受注増及び工場の稼働アップ

【販管費の主な増減要因】

- デジタルエンジニアリング事業の拡大に伴う設備投資
- 新分野開拓のための研究開発に掛かる減価償却費の増加



貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期末	2018年3月期末	比較増減
総資産	29,451	32,560	3,108
総負債	15,275	16,385	1,110
うち有利子負債	6,857	6,332	▲524
純資産	14,176	16,174	1,998
ネット資金	▲3,526	▲2,561	965

自己資本比率	48.1%	49.7%	1.6pt
自己資本利益率(ROE)	9.8%	11.8%	2.0pt

設備投資額(無形固定資産含む)	2,909	2,776	▲133
減価償却費(無形固定資産含む)	1,396	1,597	201



キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,785	3,393
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,770	▲2,335
フリーキャッシュ・フロー	▲985	1,058
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,199	▲738
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	33	419
現金及び現金同等物の期末残高	3,269	3,689



2. 2019年3月期 業績予想

2019年3月期 業績予想概況

2019年からカタログ品生産を開始するベトナム工場のフェーズⅡ移行期であり、ベトナム工場へ下期に比重を置いた集中投資を実施。

売上	連結	ベトナム工場でのフェーズⅡ投資を計画。バリューチェーン2020後半に大きなリターンを見込む。欧米での販売体制確立等、体質強化や構造改革を推進し、前期比102.4%の420億円を見込む。
	日本	自動車関連、新規取引のお客様が増加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前期比101.0%の173億円を見込む。
	中国	増設が完了し、5月に本稼働を開始する大連工場での生産強化を行い、高付加価値製品を拡販し、前期比103.0%の207億円を見込む。
	その他	前連結会計年度に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前期比105.5%の39億円を見込む。
利益		ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中で高付加価値製品の拡販や、その他の地域での事業拡大等による増加を計画。営業利益は29.2億円、当期純利益は20.7億円を見込む。



2019年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 (実績)		2019年3月期 (予想)		前期差	前期比
売上高		41,025		42,000	974	102.4%
営業利益	6.9%	2,843	7.0%	2,920	76	102.7%
経常利益	6.7%	2,731	6.7%	2,800	68	102.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.4%	1,788	4.9%	2,070	281	115.7%
自己資本利益率 (ROE)		11.8%		12.5%	0.7pt	

2019年3月期
配当予想

20円50銭 = 中間 10円25銭 + 期末 10円25銭



3. 經營環境

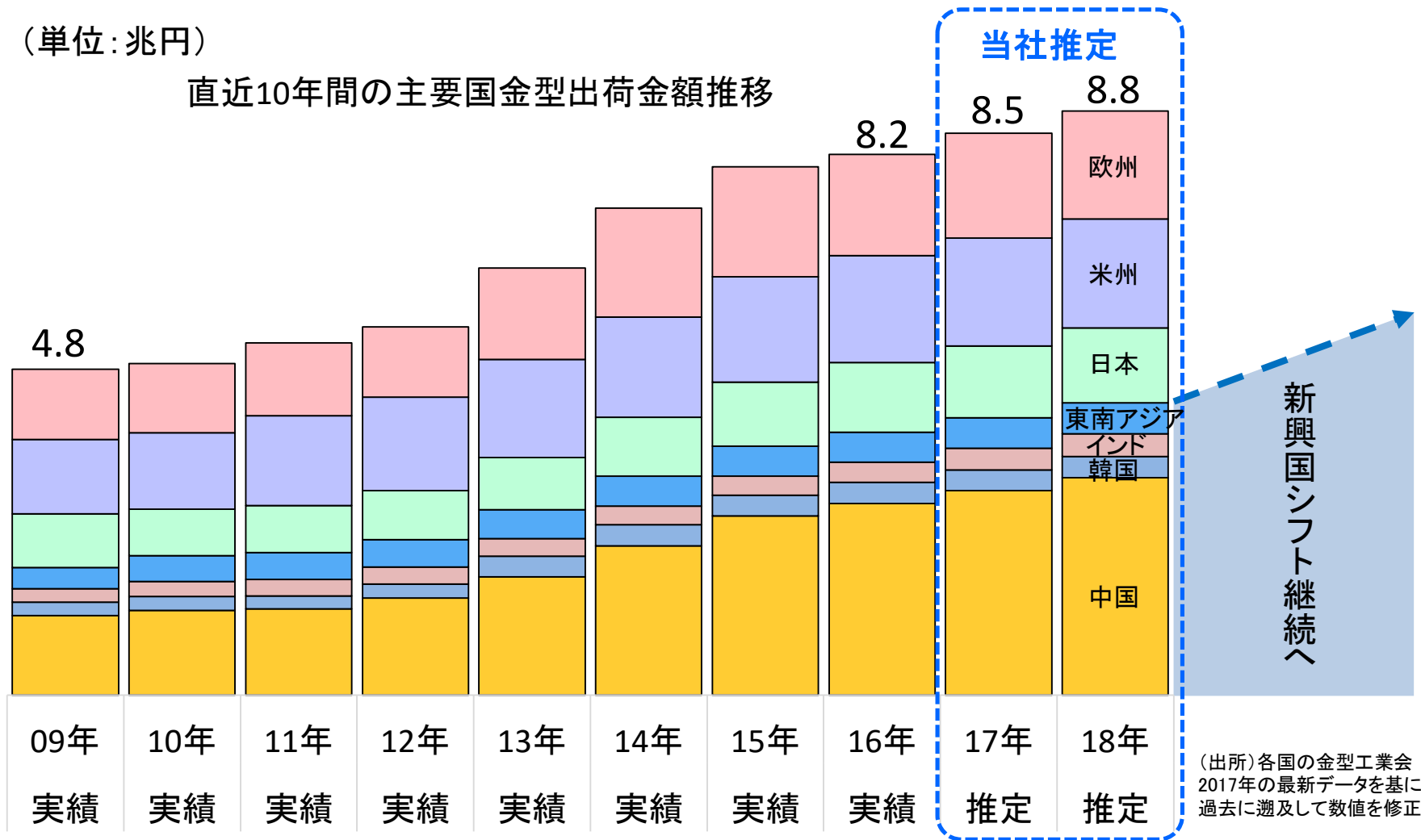


金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に回復。右肩上がりの金型市場。

(単位:兆円)

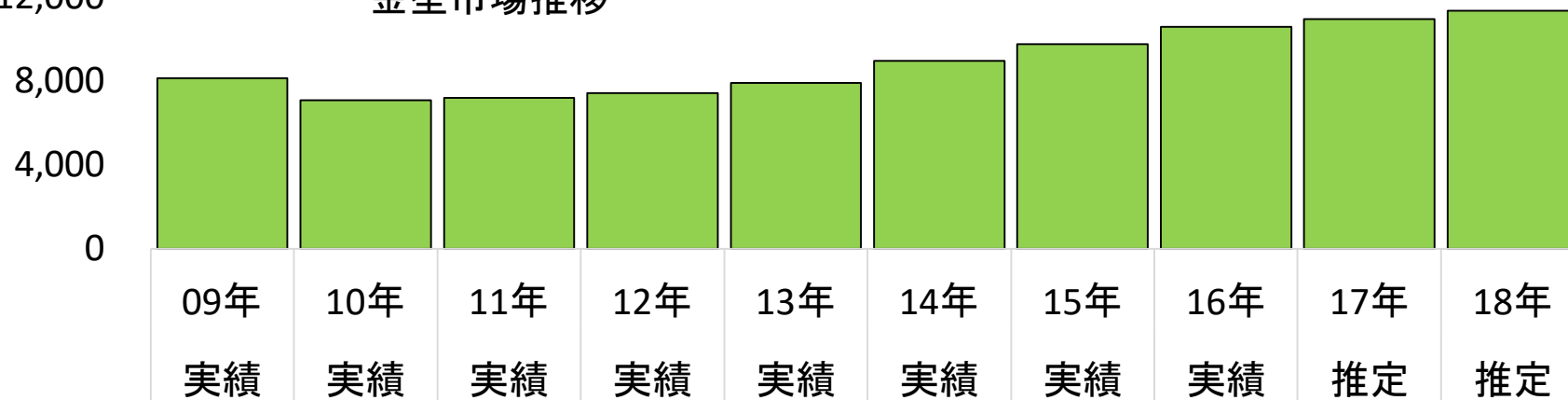
直近10年間の主要国金型出荷金額推移



日本市場

12,000 (単位:億円)

金型市場推移



顧客業界 動向

自動車

材質の硬化により金型用部品のニーズにも徐々に変化あり。

電子部品 半導体

成熟市場ではあるが、新製品への買い替え需要は高く安定。

家電 精密機器

買替需要やライフスタイルの変化等に合わせて堅調見込み。

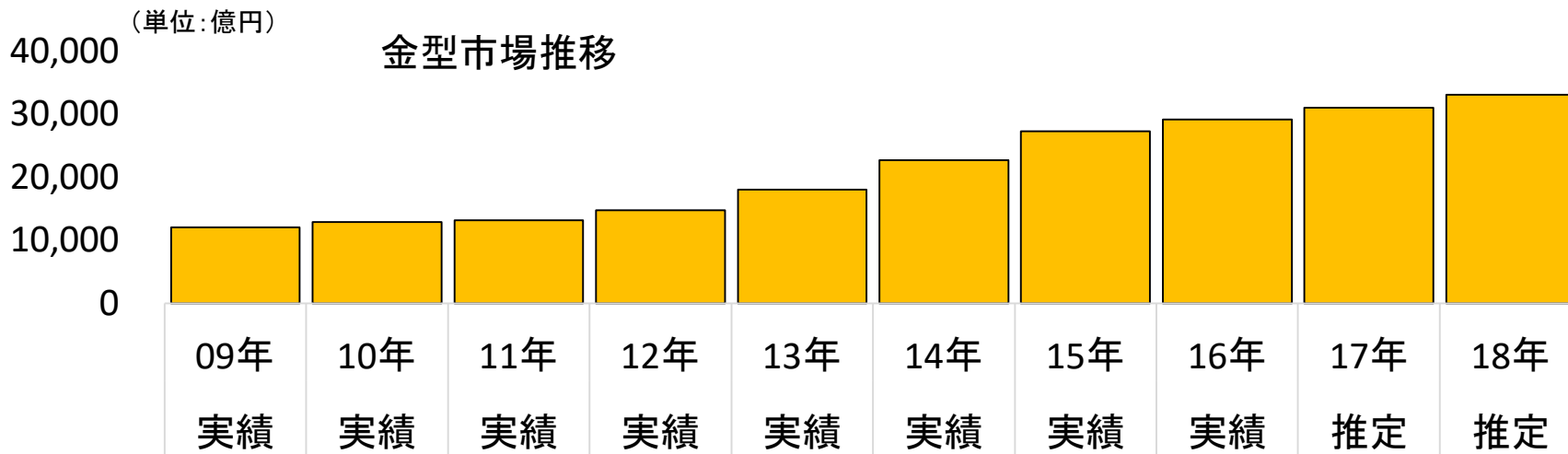
その他

ペットボトル販売が好調で、生産も増加見込み。

当社課題

好調な電子部品・半導体関連の受注強化、食品・飲料関連等の新分野への積極的な取組み。

中国市場



顧客業界 動向

自動車

急速にEV化に舵を切っており、ベンチャー企業の躍進が著しい。

電子部品 半導体

製品開発力と生産能力の強化により継続して国産化を推進。

家電 精密機器

規制による新築数の頭打ちはあるが、白物家電は好調継続。

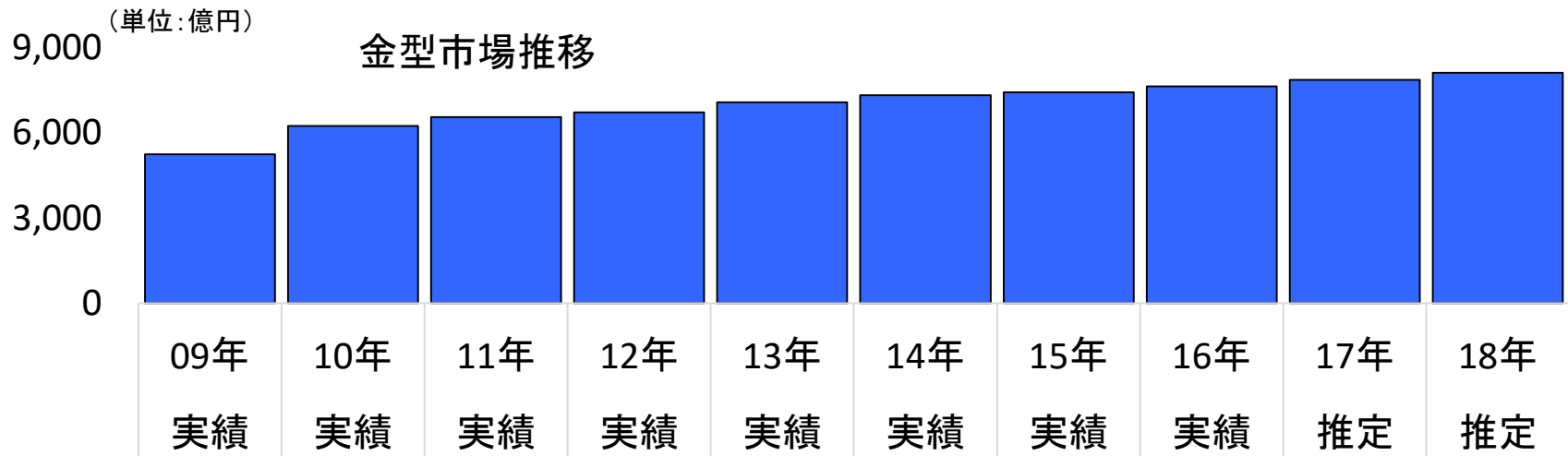
その他

製罐需要は引き続き旺盛。
医療関連は国内での開発と生産が急速に進む。

当社課題

増設が完了し、2018年5月から本稼働を開始する大連工場での高付加価値の戦略製品への取組みと特注品生産の強化。

東南アジア・インド市場



顧客業界 動向

自動車

自動車普及途上にある国の経済成長とともに需要も拡大中。

電子部品 半導体

スマートフォンの普及が進み、今後は中国以上の成長を見込む。

家電 精密機器

普及率の低い新興国の伸びが索引することで、市場拡大を予測。

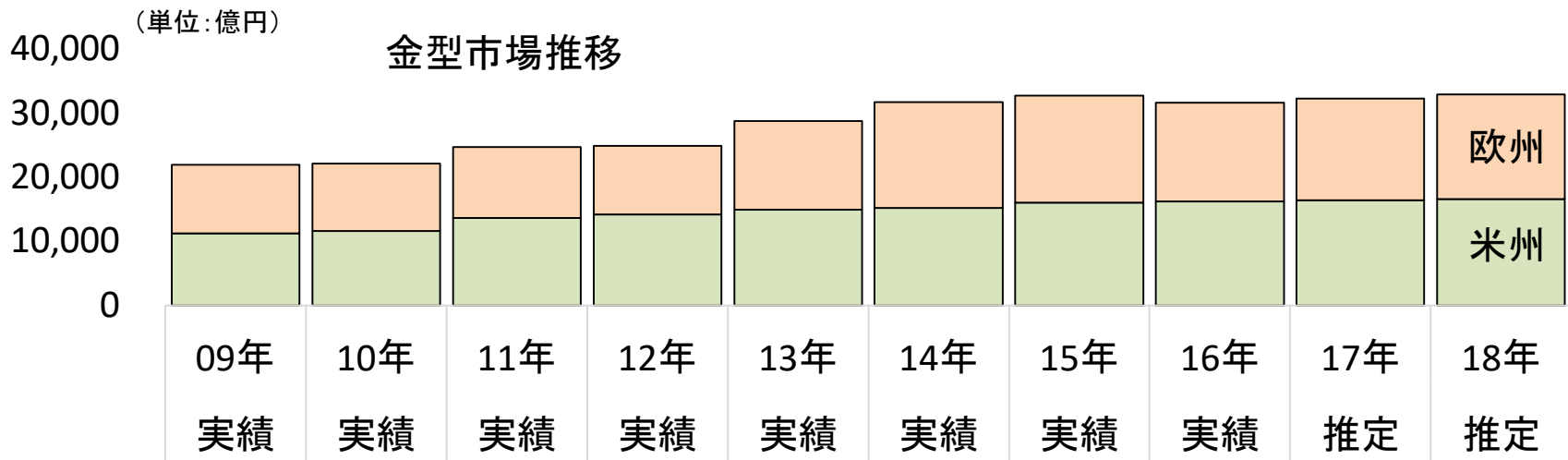
その他

スマートフォンの普及に関連した情報通信分野の伸長を予測。

当社課題

ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化と欧米向け輸出事業拡大、並びに成長市場でのポジションの確立。

欧米市場



顧客業界 動向

自動車

欧州は、一部の国で欧州危機前の水準まで戻っている。
米州は、市場環境に大きな変動はない。

電子部品 半導体

欧米ともに、2018年の半導体業界は、メモリ分野、車載用製品
などが成長を牽引すると予測。

家電 精密機器

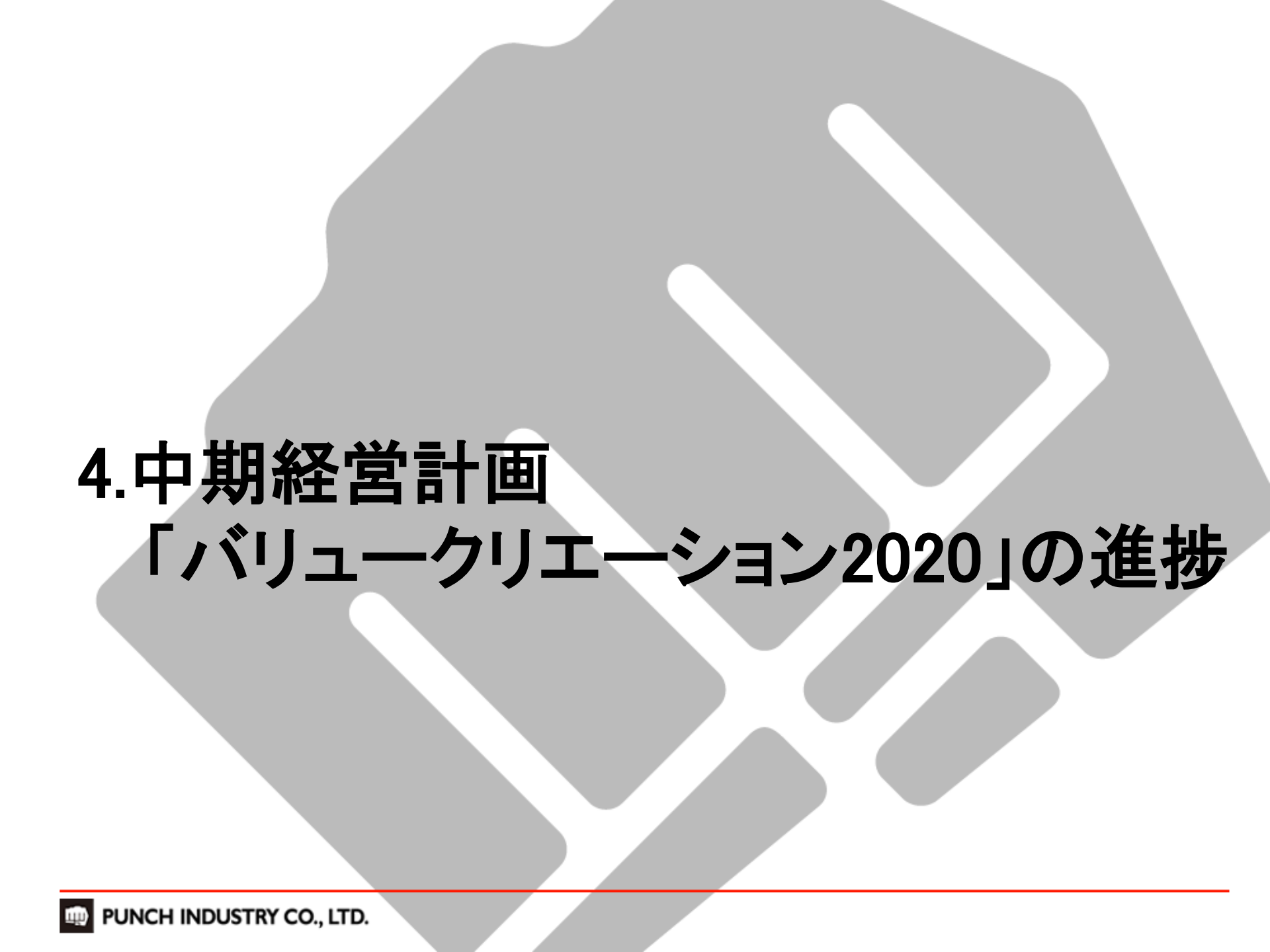
欧米ともに、買い替え需要等を背景に微増の傾向。
メインはスマート家電関連であり、白物家電は少ない。

その他

欧米ともに、在宅医療が発展し、それを支える製品もニーズが
高く、使い捨て医療機器は継続して成長見込み。

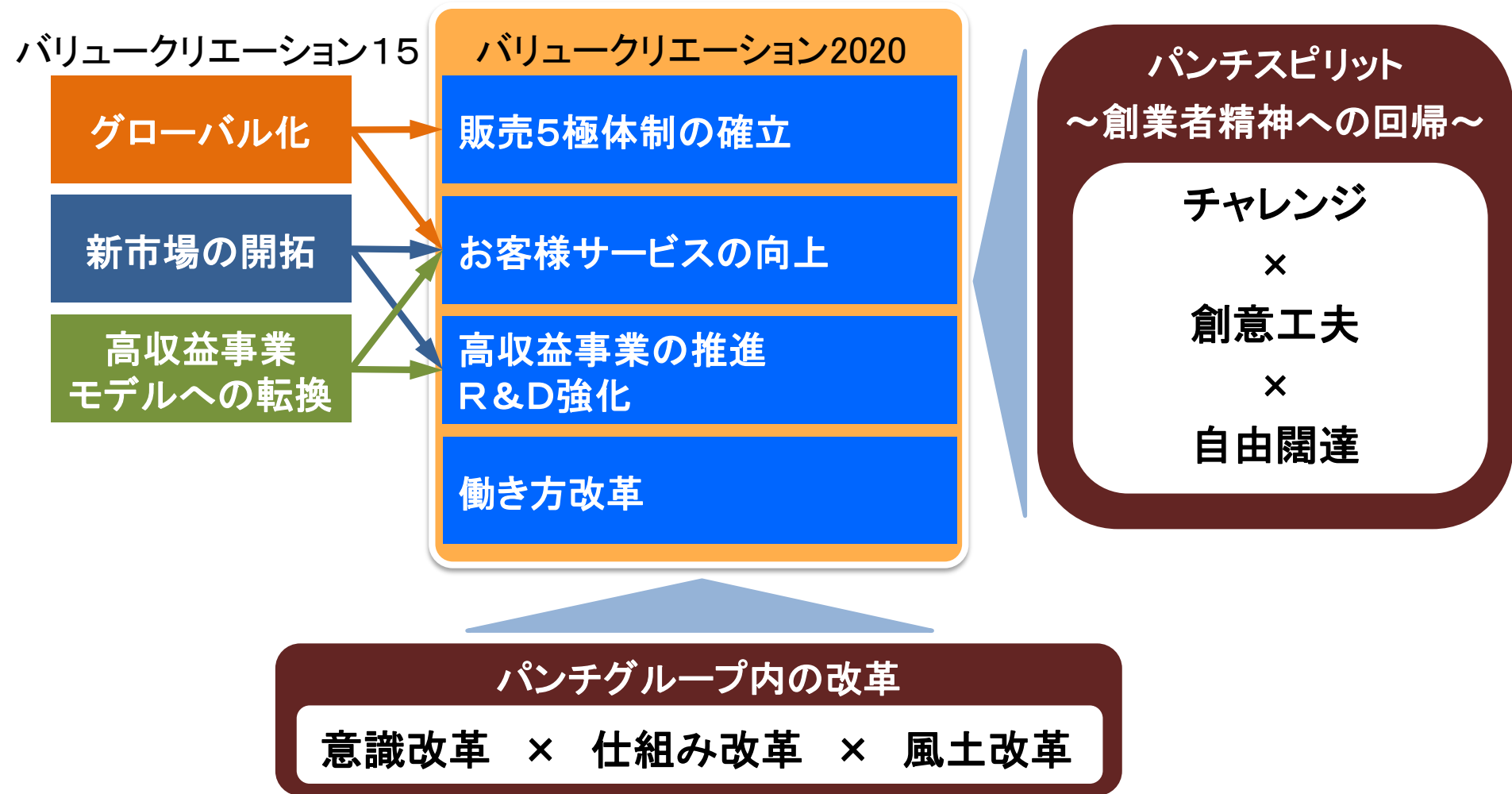
当社課題

米国における特注品市場を主体とした営業活動の強化。最適な生産拠点への
振分けを行うグローバルソーシングを活用した欧米販路の更なる拡大。



4.中期経営計画 「バリュークリエーション2020」の進捗

連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題

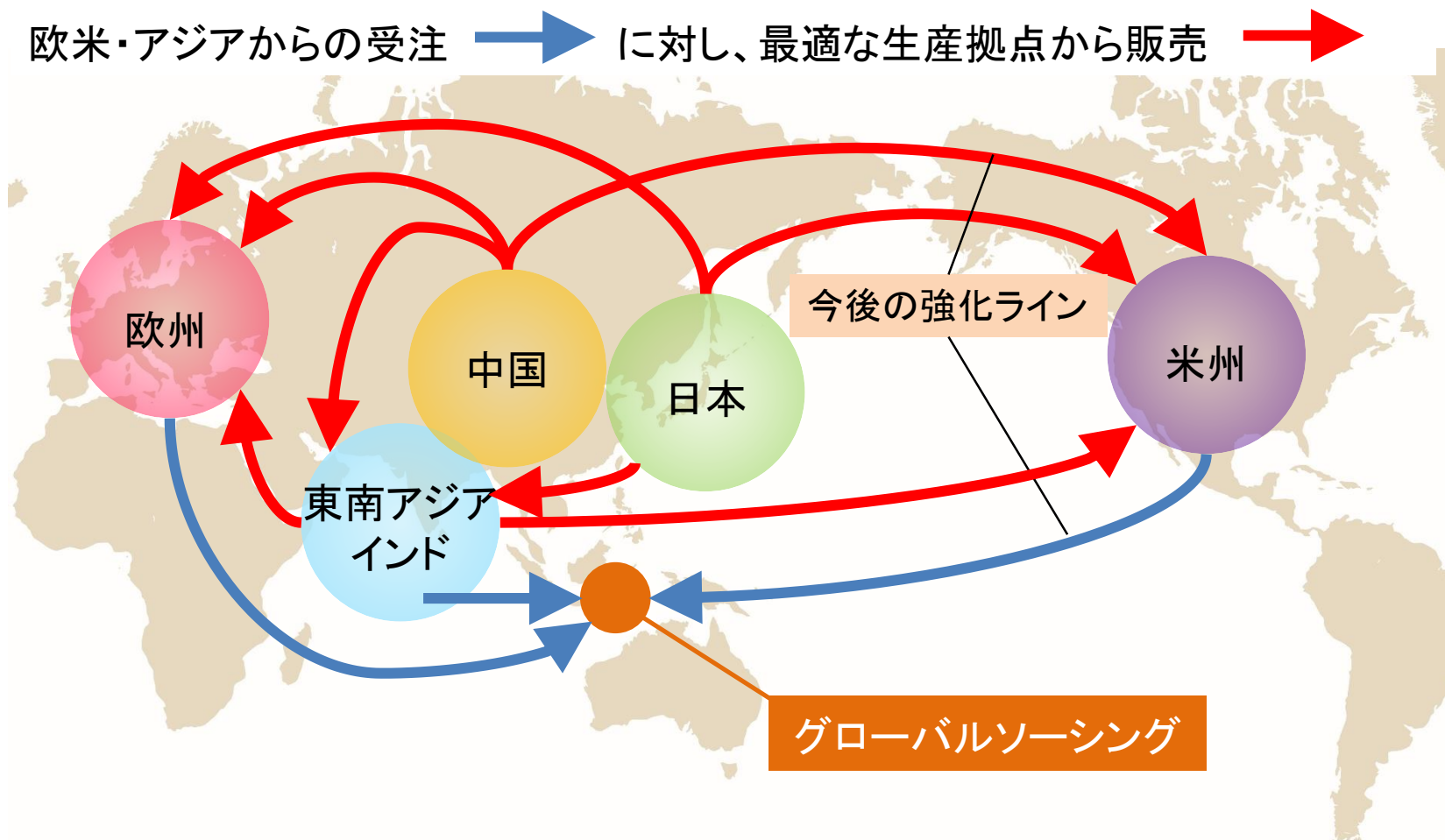


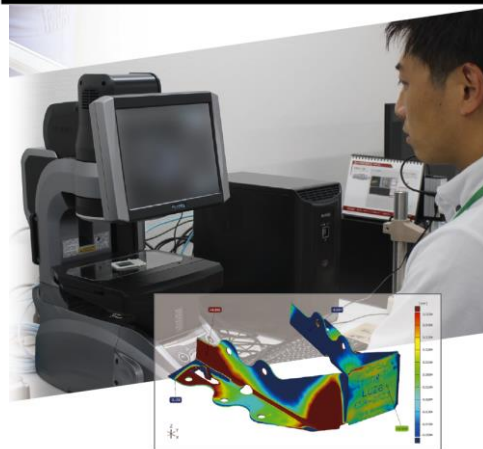
グローバルソーシングによる販売強化

販売5極体制の確立

2018年3月期の売上前期比 欧州 **135%**、東南アジア **108%**

欧米・アジアからの受注  に対し、最適な生産拠点から販売 





コスト削減 品質向上 作業効率UP

リバースエンジニアリング

図面がなくても現物から3Dデータ化

でお悩み解決



デジタルエンジニアリングサービス MxM

Digital engineering service Measuring x Multipurpose

部品の形状測定データをマルチに活用!
ご要望仕様へのデータ化や再現物製作をスムーズに実現!

3D CADデータ作成

リバースエンジニアリング部品作成

形状測定データ

持続的な成長に向けたベトナム工場の取組み

ベトナム工場を起点としたグループ生産体制の最適化

フェーズ I

投資による助走期間
(2016年度～2018年度)

フェーズ II

グループ新生産体制の本格始動
(2019年度～)

①

ベトナム工場の操業開始

①

ベトナム工場の生産能力強化

②

日本生産拠点の原価改善

②

日本生産拠点内での生産移管

③

中国生産拠点内での生産移管

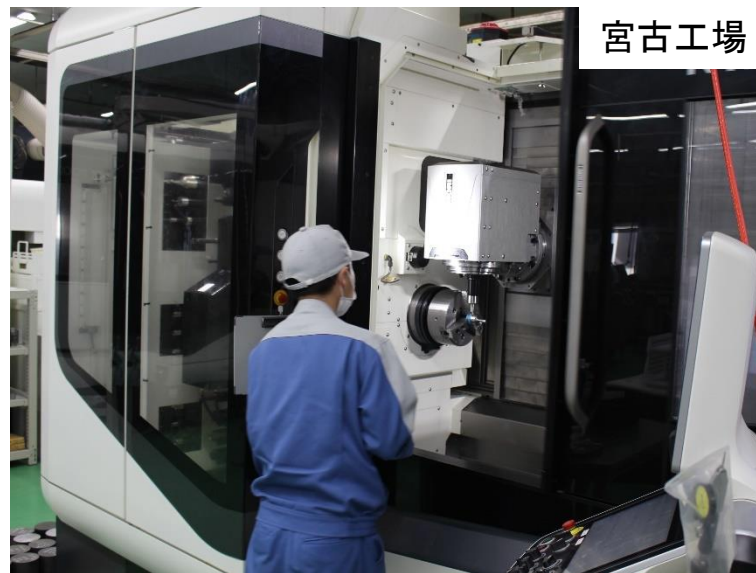
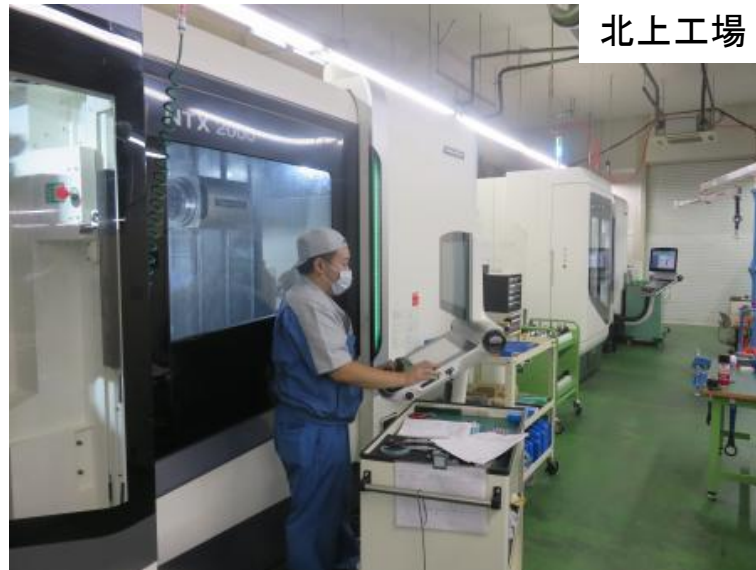
③

日本生産拠点の特注品生産を強化

投資額 9億円

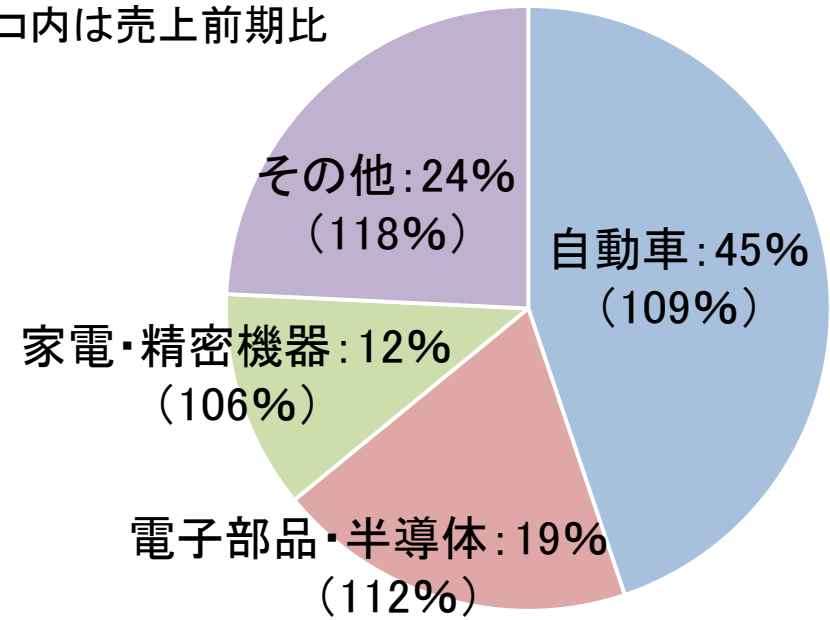
投資額 11億円

付加価値を生み出す生産体制



■ 業種別売上の構成比と前期比

※カッコ内は売上前期比



■ その他内の前期比

食品・飲料関連 134%

医療関連 133%

増設が完了した大連工場 の 状況



【工場増設の狙い】

- 戦略製品のライン新設
- 研究開発スペースの拡張
- 将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

- 新規設備の導入状況
- ⇒ 食品・飲料関連の設備導入
- ⇒ 工程の負荷軽減が主目的

- 本格稼働に向けた取組み
- ⇒ 新工場へ設備移動は完了
- ⇒ 旧工場のレイアウト変更中

- 研究開発の内容
- ⇒ EV関連、航空宇宙関連等

グローバル生産体制の再編

【課題】カタログ品の粗利改善



バリュークリエーション2020期間の設備投資(計画)
2017年3月期～2021年3月期

140億円

【重点】食品・飲料、医療機器関連



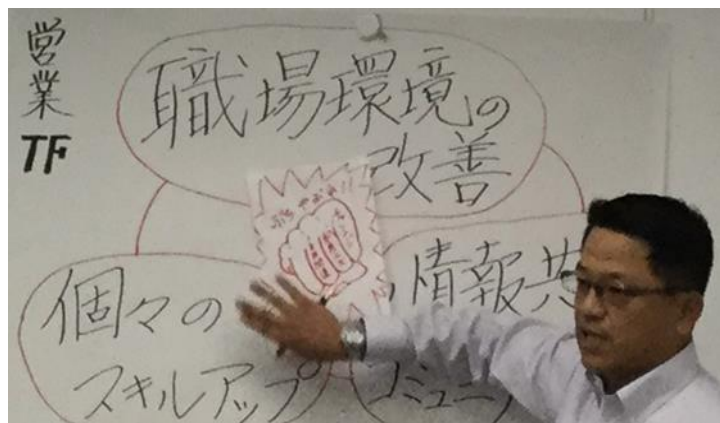
■ コスト力勝負

⇒ ベトナムシフト(カタログ品)

■ 技術力勝負

⇒ 日本+中国(特注品)

働き方改革委員会の発足



心づかふぞ!!



パンチスピリット

■ 有給取得率

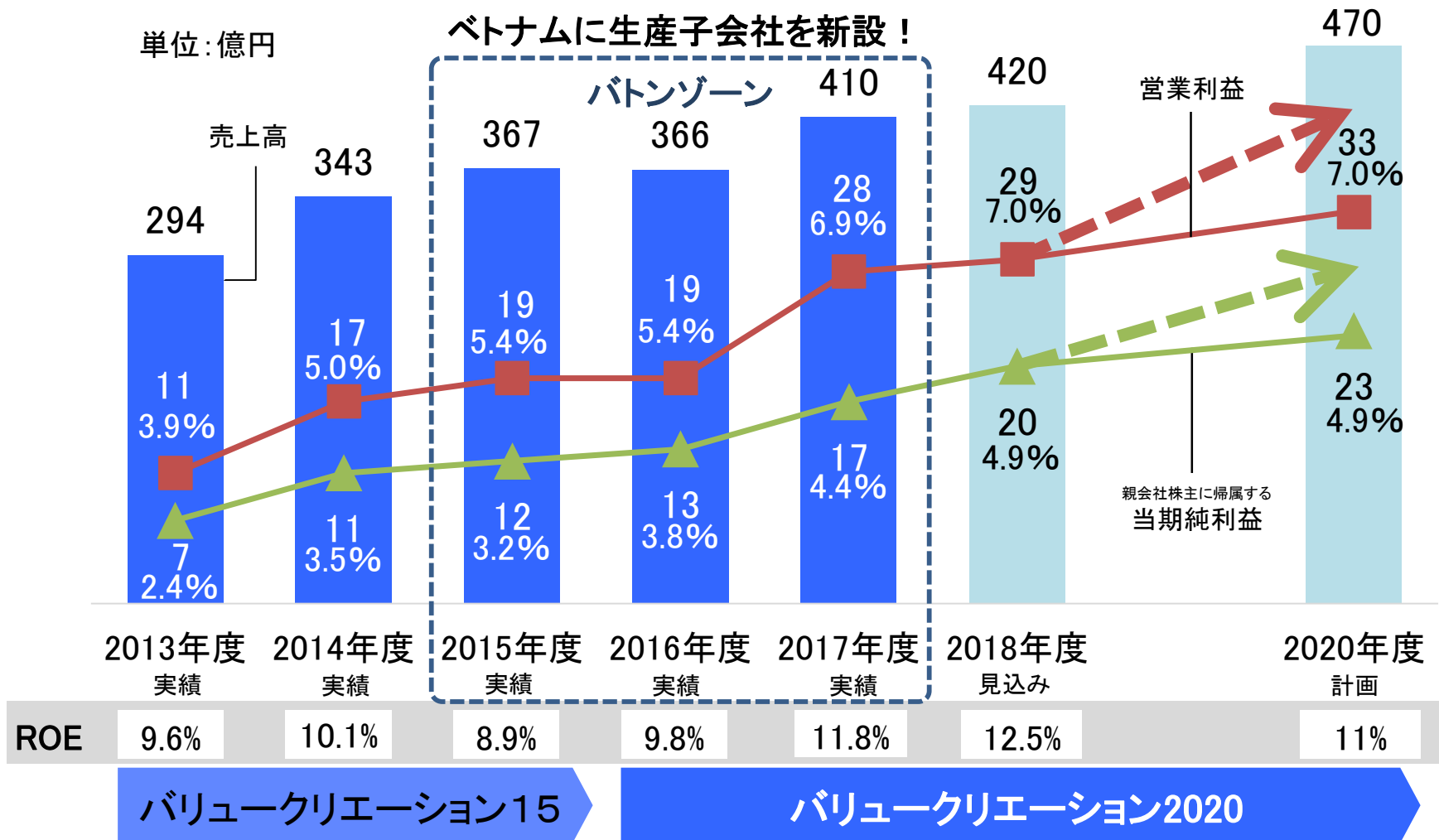
- ・ 初の5割超え

■ 残業時間 (2017年度の前期比)

- ・ 工場部門
21～43%削減
- ・ 営業部門
29～36%削減
- ・ 管理部門
18～54%削減

経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高**470億円以上** 営業利益**33億円以上** 当期純利益**23億円以上**

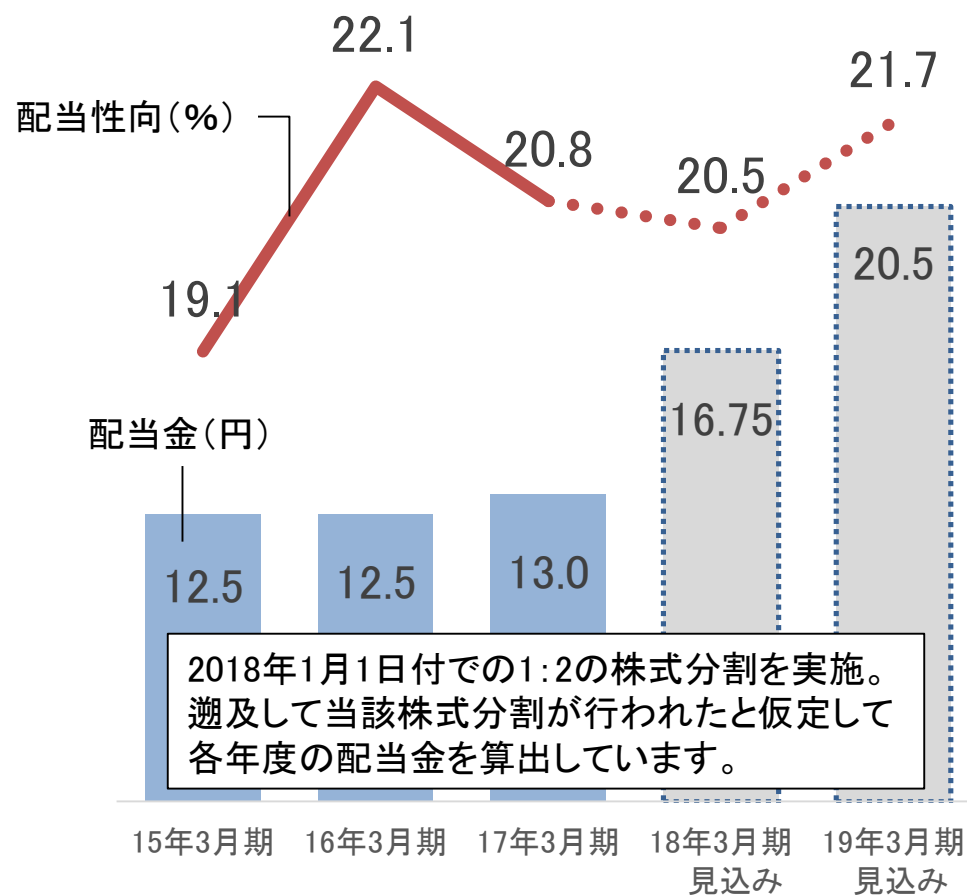


1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標。

継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。



2019年3月期の配当
中間・期末ともに10円25銭
= 20円50銭予定(3円75銭増配)

トップメッセージ

①

ベトナム工場のフェーズⅡ移行準備の推進

②

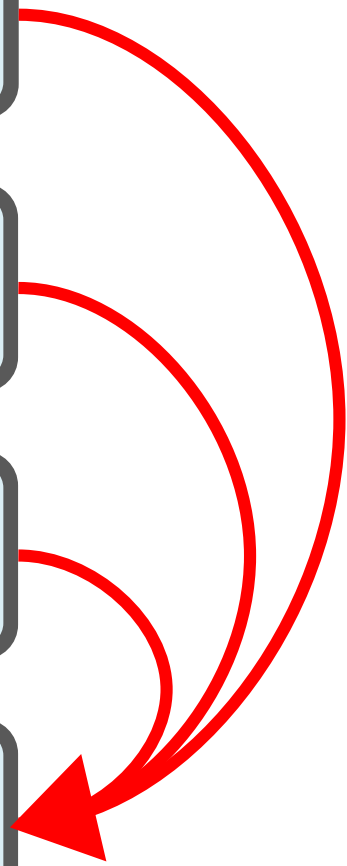
新規お客様獲得による欧米への販路拡大

③

高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進

④

ステークホルダーの皆様の期待値に応える



参考資料



会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	4,298名(グループ連結、2018年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)



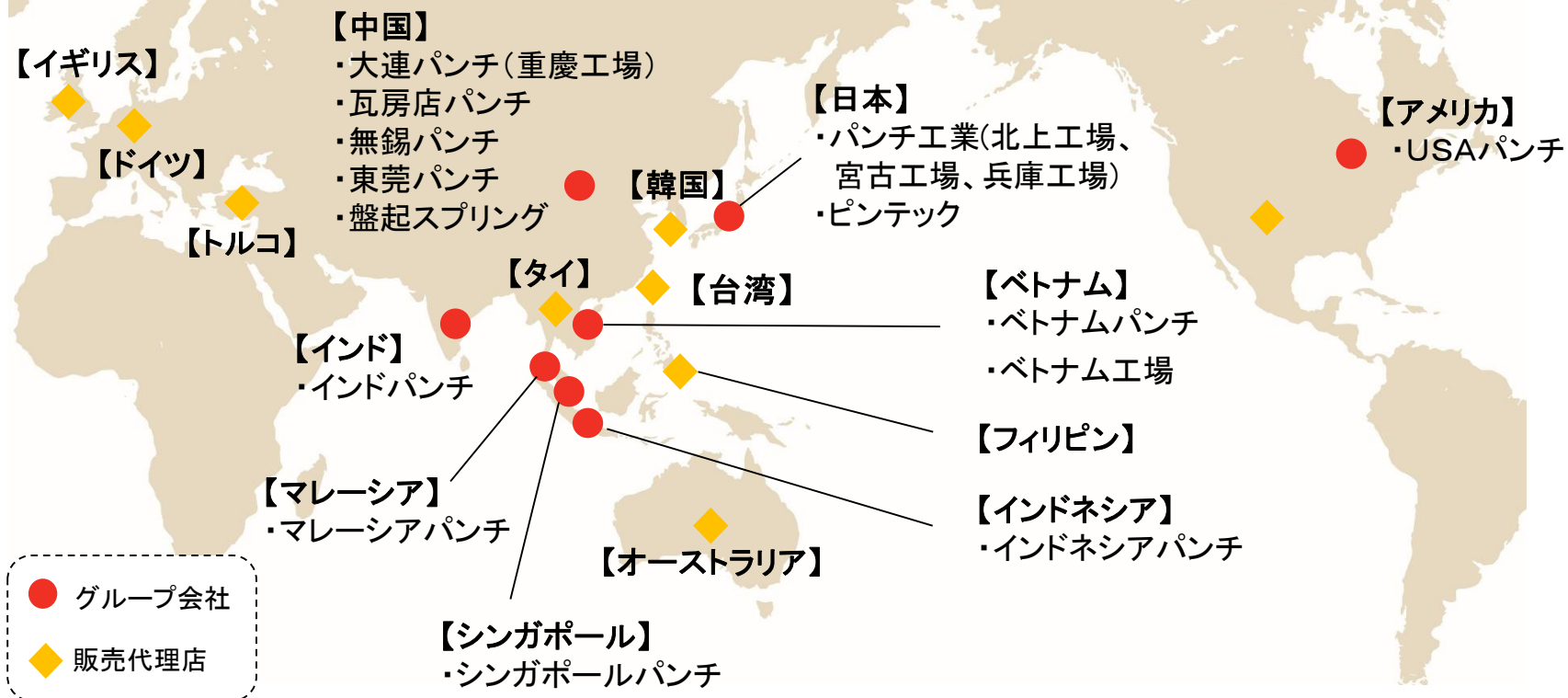
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

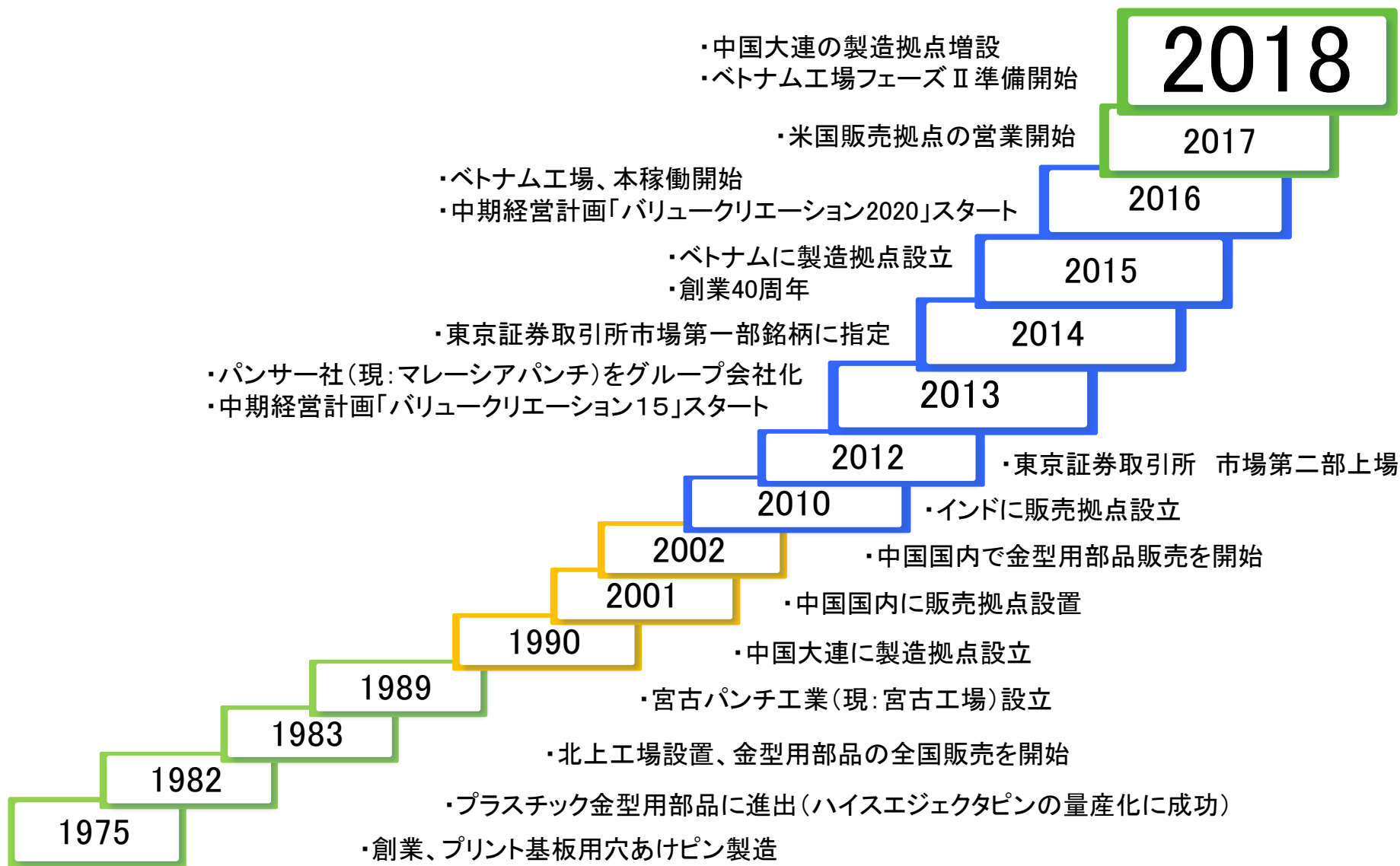
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
12	40
カ所	カ所

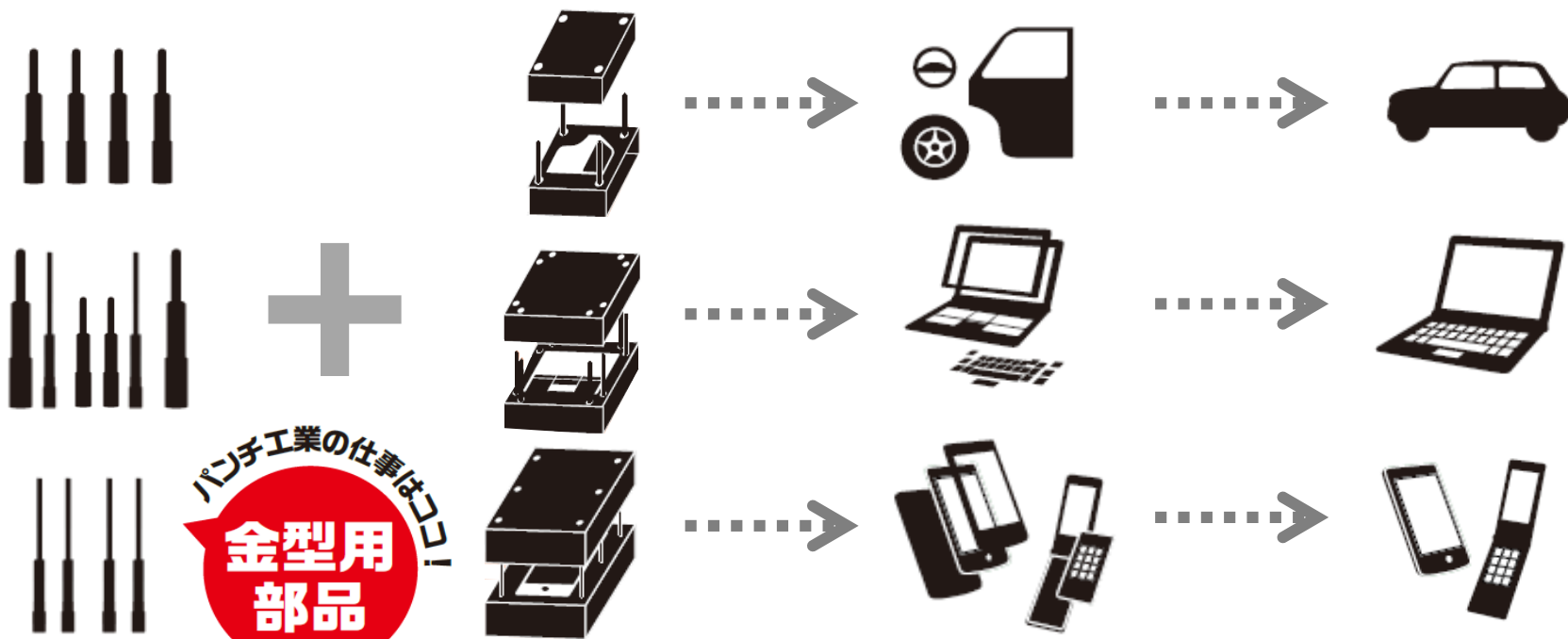


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



たとえばこんな部品



金型

構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

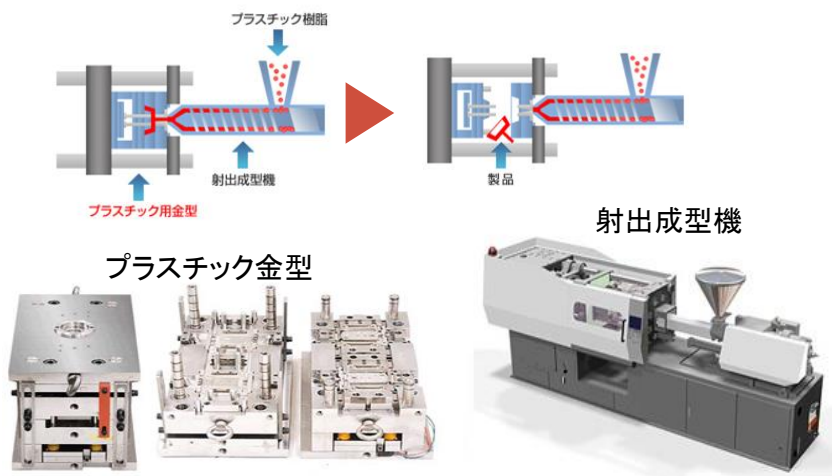
構成部品

製品を構成するために必要となるパーツ

製品

自動車や家電など私たちが身近で使うさまざまな製品

プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン



スプルーブシュ・ロケートリング

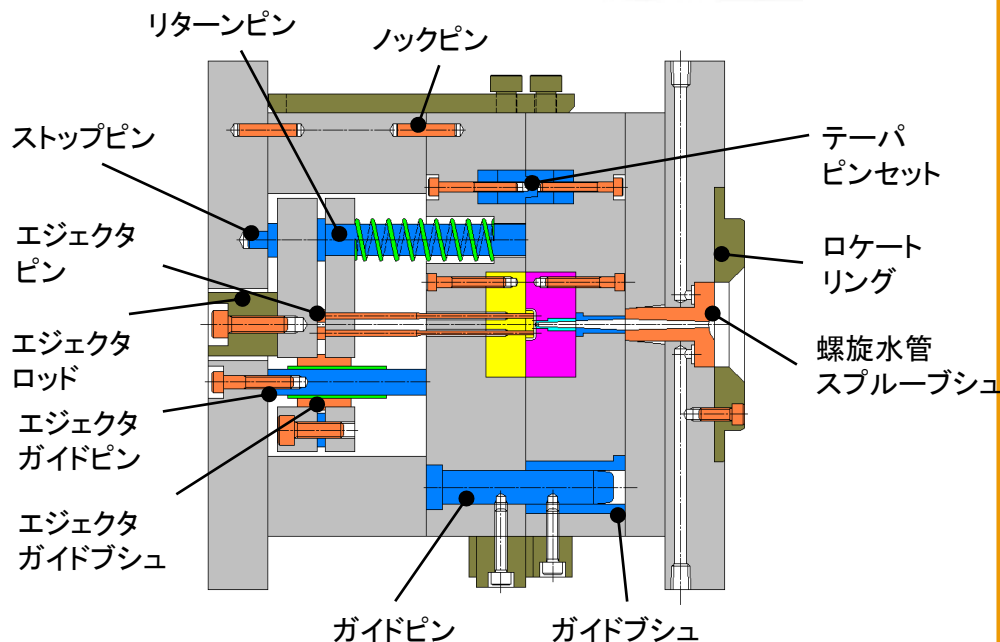
●プラスチック金型用部品について

プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

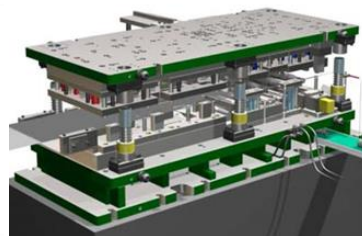
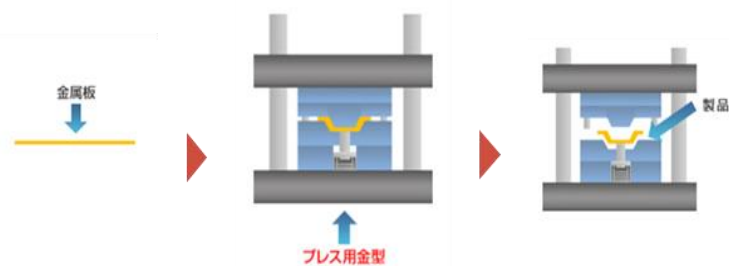
当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品



プレス金型と金型用部品



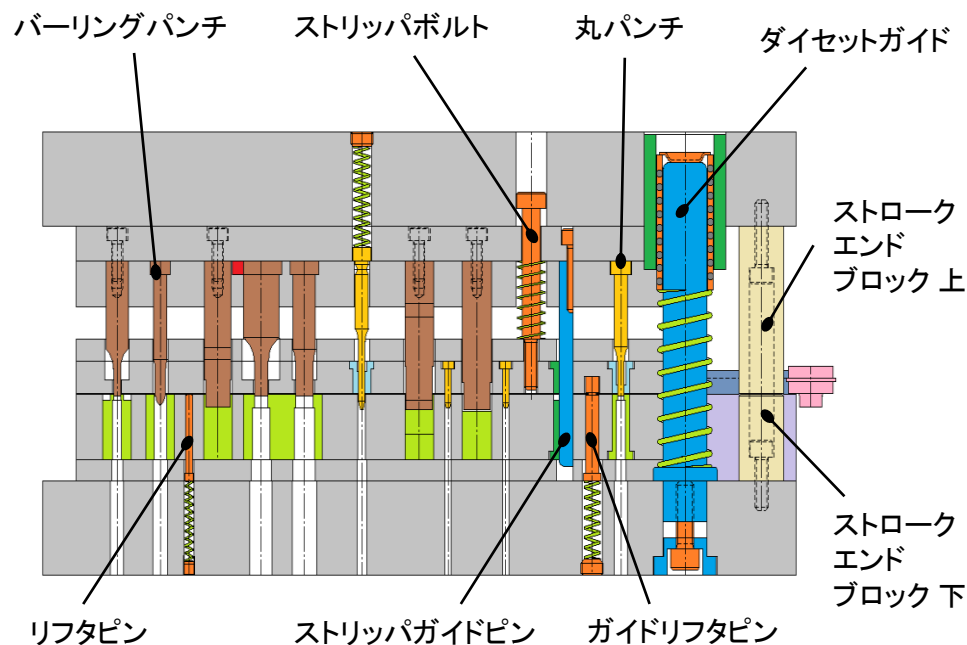
プレス金型



パンチ



ダイセットガイド



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を
豊富にラインナップ

スピーディーな
ソリューション

特注品

カスタムニーズにも
柔軟に対応



一気通貫の生産体制

1,900台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制

きめ細かな対応・提案力

高い技術力

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

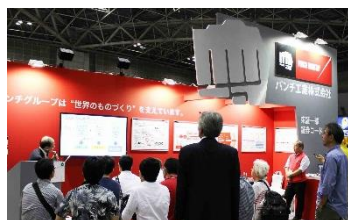
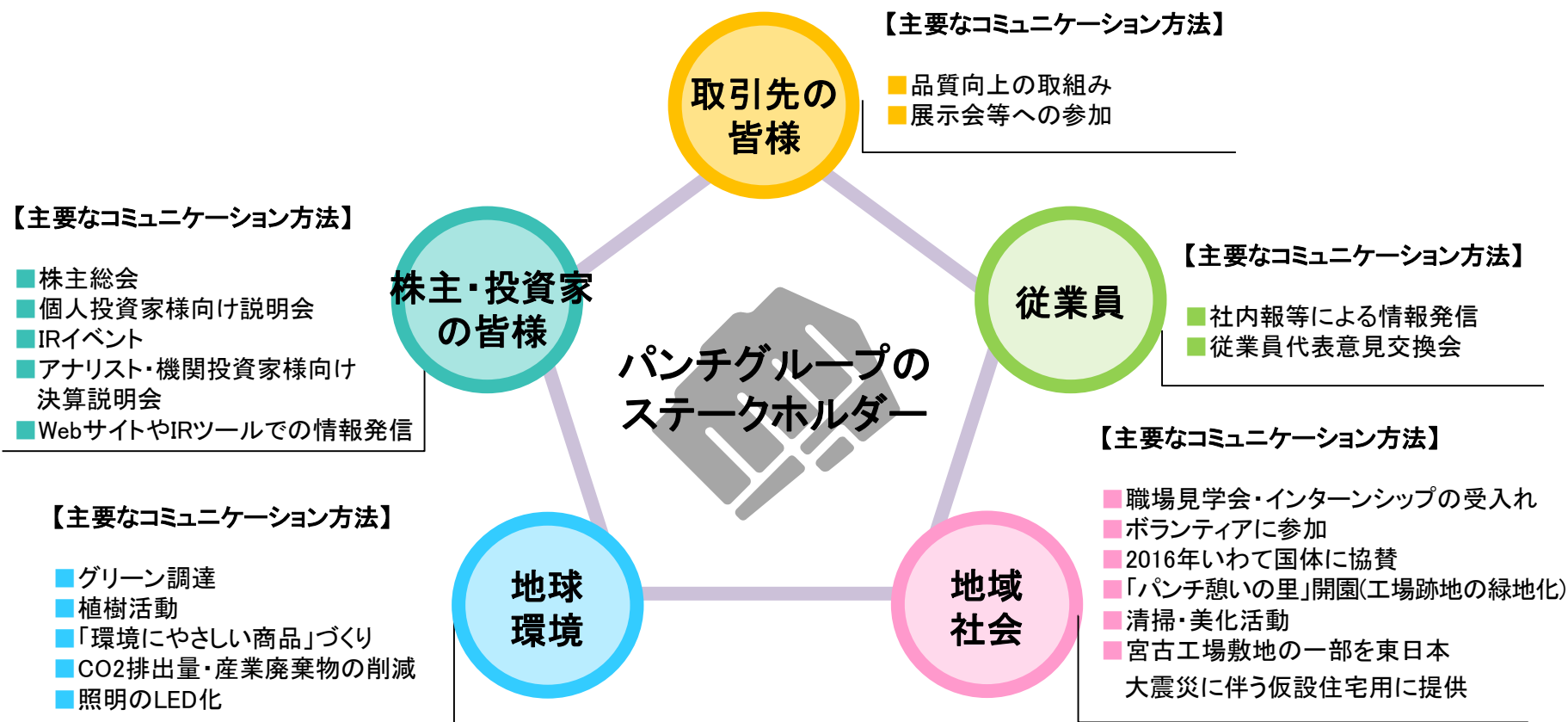
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)



職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。